20世紀中国画壇の巨匠

傅抱石（ふほうせき）

日中美術交流のかけ橋

1999年10月12日(火)―11月21日(日)

●開館時間――午前9時―午後5時［入館は午後4時30分まで］
●休館日――10月18日［月］、25日［月］、11月1日［月］、4日［木］、8日［月］、14日［日］、15日［月］
●入館料――一般300円［240円］／小中学生100円［80円］
※［］内は団体10名以上 ※65歳以上及び障害者の方は無料 ※第2、第4土曜日は小中学生無料
●主催――渋谷区立松濤美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会
●協力――江蘇省文化庁・江蘇省国画院 ●協賛――花王株式会社

渋谷区立松濤美術館
〒150-0046 渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421
渋谷駅徒歩15分 神泉駅徒歩5分

●講演会――10月24日［日］午後2時～「傅抱石と中国絵画の革新」講師＝傅益玉［画家・傅抱石四女］

風雨帰牧 1950年代 傅家蔵

傅抱石

20世紀中国画壇の巨匠
日中美術交流のかけ橋

傅抱石（1904～1965）は、江西省に生まれ、独学で書画篆刻を始め、1925年には最初の著作「國畫源流概述」を出版、1933年に現代中国絵画の変革に大きな役割を果たした徐悲鴻の推挙を受けて日本に留学、帝国美術学校（現・武蔵野美術大学）で金原省吾、山口蓬春などのもとで東洋美術史、日本画などを学びました。1935年に銀座松坂屋で開いた個展では、横山大観や正木直彦らの賞賛を受けています。

同年に帰国。南京中央大学芸術系教授となり、後進の指導にあたるとともに、明末清初の画家石濤に関する研究などにも努めました。抗日戦争中は一時重慶に移り、解放後は南京師範学院教授、西泠印社副社長、江蘇省國画院院長などをつとめ、南京画壇の中心として活躍、北京の斉白石とともに「二石」と称される中国現代絵画を代表する存在でした。

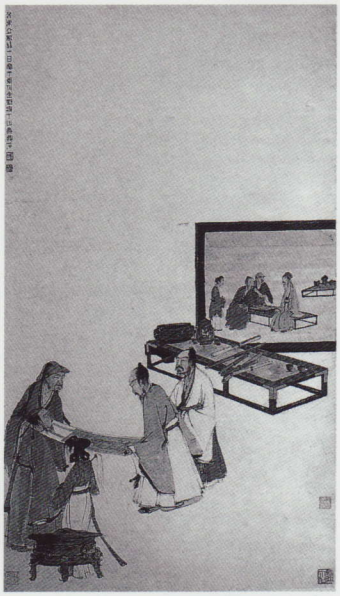
彼は、中国の名山大川を遍く巡り、また、「往往酔後」の印が示すように酒を愛しました。独自に編出した皴法「抱石皴」を用いた雄渾なる山水、特に雨景及び瀑布を善くし、また、「楚辞」等の文学作品や歴史・故事に取材した人物画、特に仕女図には格別の趣があります。更には、横山大観や橋本関雪に倣った作品もあり、近代日中の絵画交流を考える上でも重要な存在であります。

本展では、傅家所蔵作品を中心に、武蔵野美術大学美術資料図書館に収蔵される留学時代の作品及び米国、台湾、香港、国内の美術館・個人の収蔵品などあわせて約100点を陳列し、20世紀中国画壇の最高峰ともいえる傅抱石の、伝統を踏まえつつ独自の画風を樹立した画業をかえりみるとともに、日中の絵画交流についても検証いたします。

大滌草堂 1942年 傅家蔵

清閣著書図 1945年 香港・個人蔵

後赤壁図 1964年 橋本コレクション



洗手図 1943年 米国・個人蔵

四季山水・冬 1954年 江蘇省国画院蔵

鶏図 武蔵野美術大学美術資料図書館蔵

屈子行吟 1953年 傅家蔵

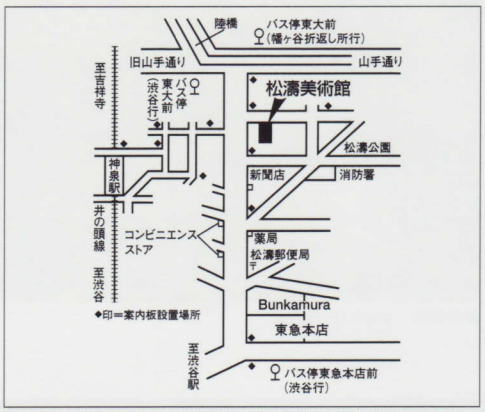
◎美術映画会

10月17日（日）午後2時～
「漢詩紀行　詩聖杜甫　長安詠懐・西南放浪」
11月3日（水）午後2時～
「漢詩紀行　項羽と劉邦・陶淵明と謝霊運」

◎美術相談

10月31日（日）午後2時～午後4時
磯村敏之（油彩）・宮田翁輔（油彩・パステル）
11月21日（日）午後2時～午後4時
佐藤善勇（油彩）・戸田康一（日本画）

東京都渋谷区松濤2-14-14　TEL. 03-3465-9421



■JR渋谷駅下車徒歩15分 ■京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分